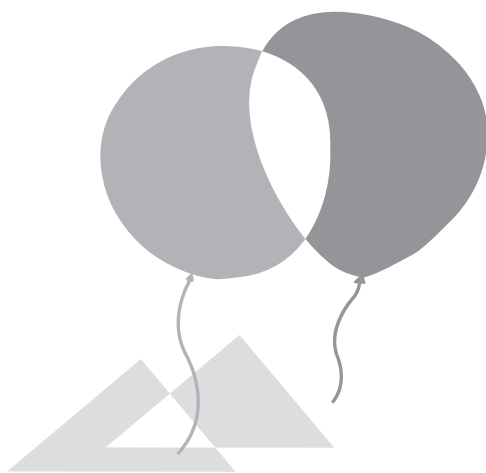


第 5 章

子育て環境

河村 洋子



子どもを取り巻くメディアの環境は02年調査から大きく変化した。家での母親のパソコン使用が増加していることから、家庭でのパソコンの普及は急速に進んだことが読み取れる。また、家でパソコンを使用する子どもの割合は学年に比例して増加し、小5生で半数を超える。子どもの成績により、パソコンと携帯ゲーム機の使用に違いがみられる。

● 家庭のメディア環境

02年調査から、テクノロジーの進歩により、子どもを取り巻くメディア環境は大きく変化した。今回の調査結果からもその様子がうかがえる。まずは、家庭環境における変化をいくつかのメディアに着目してみよう(図5-1-1)。02年調査から大きく増加した項目は、「あなたは家でパソコンを使うことがある」で02年調査50.9%から07年調査66.7%と、約16ポイントも増加している。「あなたの配偶者(夫)は家でパソコンを使うことがある」は約6ポイント増加(02年調査63.2%→07年調査69.4%、以下同)した。母親の家庭でのパソコンの使用が急速に増加し、父親と同程度になったといえる。「子どもが携帯電話を持っている」は全体で約20ポイント増加した(24.0%→43.8%)。学校段階別でみると、とくに中学生での増加が著しく、約26ポイント増えている(40.7%→67.1%)。

一方で減少した項目は「家に本(マンガや雑誌以外)がたくさんある」と「子ども専用のテレビがある」で、それぞれ全体で約5ポイント(52.7%→47.6%)、約9ポイント(24.4%→15.7%)減少した。「家に本がたくさんある」の割合の低下は、本以外のメディアに触れる機会の増加や、あるいは活字離れの可能性も考えられる。また専用のテレビの所有率の減少は、子どもがする「ゲーム」がテレビゲームから、パソコンや携帯ゲーム機などの登場により多様化してきたことも要因として考えられる。さらに、2章3節でみたように、しつけに熱心な家庭が増えている様子か

ら、保護者が子どものテレビの視聴をコントロールする傾向が強まったこともあるのかもしれない。

● 家での子どものパソコンの使用

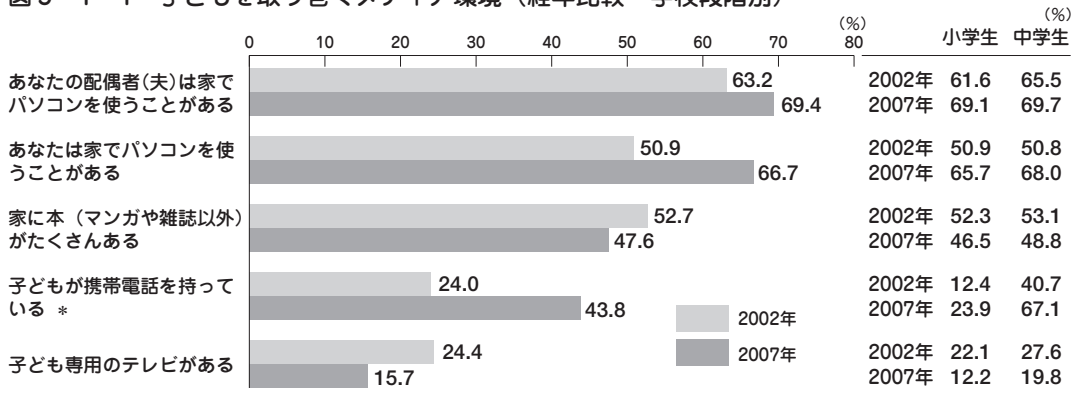
子どものパソコンの使用の状況をみてみたい。図5-1-2の「全体」の数値の推移からわかるように、全体の傾向として家でパソコンを「使う」(「よく使う」+「時々使う」の%、以下同)割合は学年に比例して増加する。小5生では5割を超え、中3生では68.5%が家でパソコンを使っているようだ。

次に、子どもの成績別にパソコンの使用の状況をみてみよう。ここでは、図が煩雑になるのをさけるために、成績の「中位」を割愛した。家でのパソコンの使用は、どの学年でも成績が「上位」の子どもが「下位」の子どもと比べ多いことがわかる。「上位」と「下位」の家でのパソコンの利用率の差は、小4生、小5生、中1生でやや大きい。

● 携帯ゲーム機の使用

つづいて、携帯ゲーム機の使用状況をみてみると(図5-1-3)、パソコンとは異なっていることがわかる。学年別全体値は、小4生でピークの74.6%となり、その後は学年が上がるにしたがって減少し、中3生で48.3%となる。成績別(「中位」の数値は省略)に携帯ゲーム機の使用状況をみてみると、成績の「下位」の子どもの使用率が小5生を除くすべての学年で「上位」より高い。「上位」「下位」とも利用率は小4生でもっとも高く

図5-1-1 子どもを取り巻くメディア環境（経年比較 学校段階別）



注1) 複数回答。

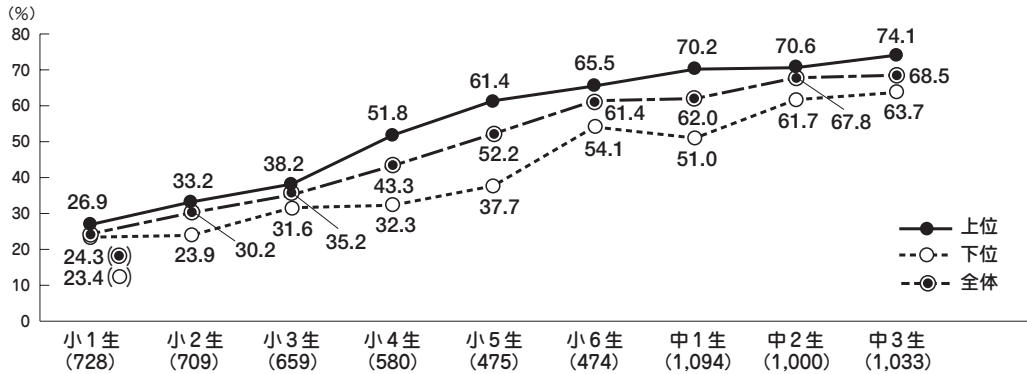
注2) *は2002年調査では「子どもが携帯電話やPHSを持っている」とたずねた。

注3) 左図は小1～中3生の数値。

注4) 右表の小学生は小1～小6生、中学生は中1～中3生の数値。

注5) サンプル数は2002年：全体6,085名、小学生3,579名、中学生2,504名、2007年：全体6,770名、小学生3,625名、中学生3,127名。

図5-1-2 パソコンの使用状況（全体・学年別×成績別）



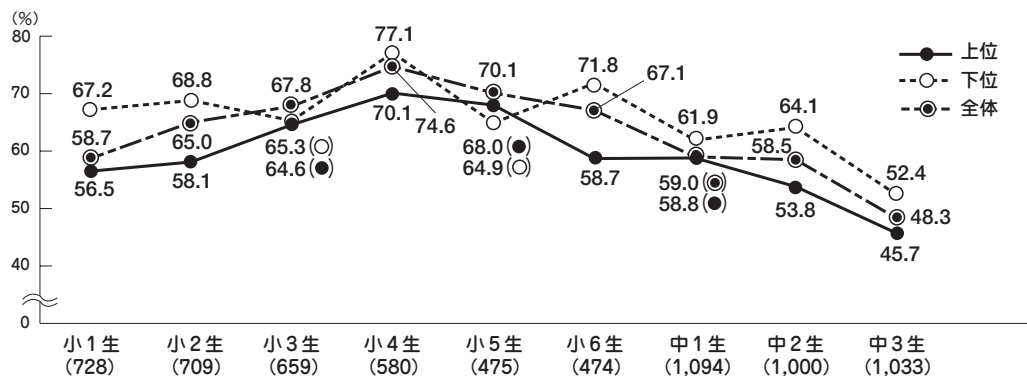
注1) 数値は「よく使う」+「時々使う」の%。

注2) 子どもの成績については、「お子様の学校での成績は、クラスの中でどのくらいですか」とたずねた質問で、「上のほう」「真ん中より上」を「上位」、「真ん中くらい」を「中位」、「真ん中より下」「下のほう」を「下位」とした。なお「中位」の数値は省略した。

注3) 各学年サンプル数は「中位」を含む。

注4) () 内はサンプル数。

図5-1-3 携帯ゲーム機の使用状況（全体・学年別×成績別）



注1) 数値は「よく使う」+「時々使う」の%。

注2) 子どもの成績の区分は図5-1-2と同様。

注3) 各学年サンプル数は「中位」を含む。

注4) () 内はサンプル数。

なっており、「下位」は77.1%、「上位」では70.1%である。

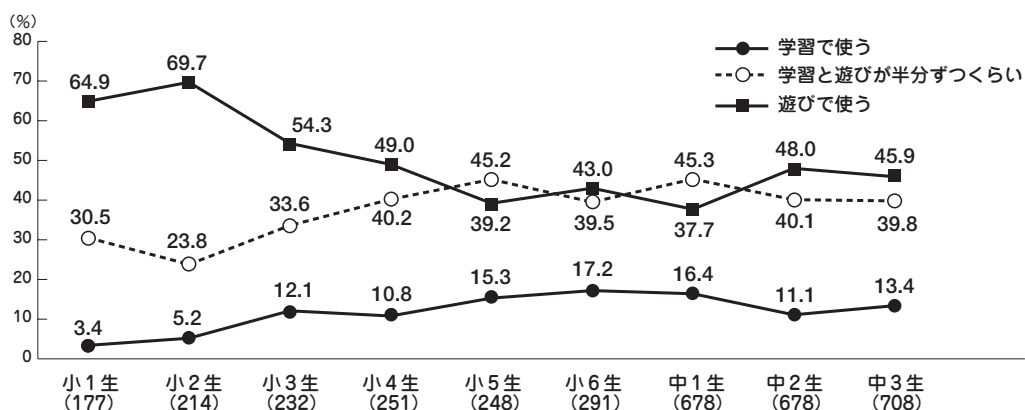
● パソコンと携帯ゲーム機の使用目的

パソコンの使用目的を示したものが図5-1-4である。パソコンの使用目的が小学校低学年では「遊びで使う」（「だいたい遊びで使う」＋「ほとんど遊びで使う」の％、以下同）の割合が6～7割程度であるのに対し、「学習で使う」（「ほとんど学習で使う」＋「だ

いたい学習で使う」の％、以下同）の割合は1割にも満たない。しかし、学年が上がるにつれ、学習での使用（「学習で使う」「学習と遊びが半分ずつくらい」）が増加し、遊びでの使用が減少する。

一方、携帯ゲーム機については（図5-1-5）、「遊びで使う」の割合はほとんどの学年で9割を超え、使用の目的はもっぱら遊びであることがわかる。

図5-1-4 パソコンの使用目的（学年別）

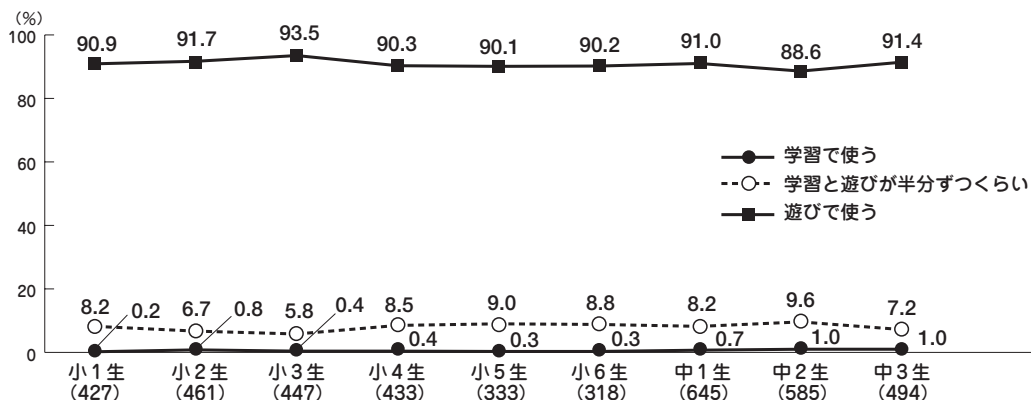


注1) パソコンを「使う」（「よく使う」＋「時々使う」）と回答した人のみを対象に算出。全体母数は3,485名、学年が不明の者は省略した。

注2) 「学習で使う」は「ほとんど学習で使う」＋「だいたい学習で使う」の％。「遊びで使う」は「だいたい遊びで使う」＋「ほとんど遊びで使う」の％。

注3) () 内はサンプル数。

図5-1-5 携帯ゲーム機の使用目的（学年別）



注1) 携帯ゲーム機を「使う」（「よく使う」＋「時々使う」）と回答した人のみを対象に算出。全体母数は4,159名、学年が不明の者は省略した。

注2) 「学習で使う」は「ほとんど学習で使う」＋「だいたい学習で使う」の％。「遊びで使う」は「だいたい遊びで使う」＋「ほとんど遊びで使う」の％。

注3) () 内はサンプル数。

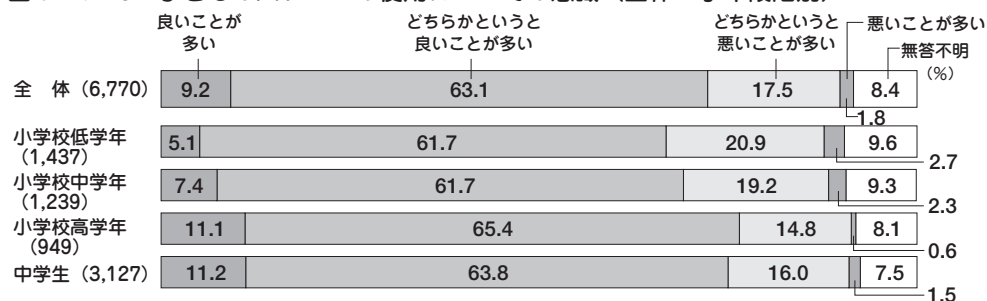
子どものメディア利用に関する母親の意識

母親は子どもがパソコンや携帯ゲーム機、携帯電話を使用することについてどのように考えているのでしょうか。これら3つのメディアについて、良いことと悪いことのどちらが多いと思うかをたずねた（図5-1-6～8）。

子どもがパソコンを使用することに関して、全体で72.3%の母親が「良いことが多い」

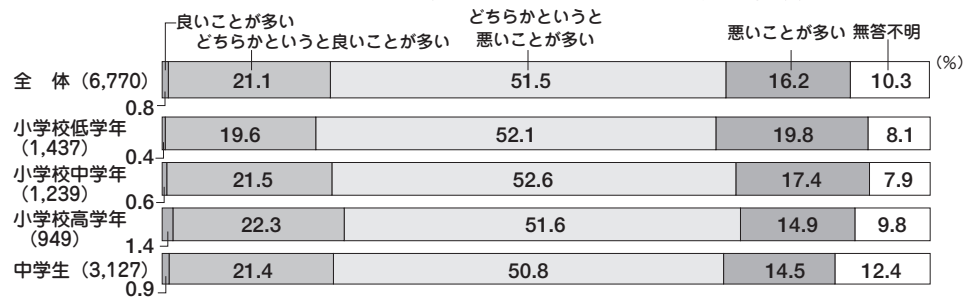
（「良いことが多い」＋「どちらかというが良いことが多い」の％、以下同）と回答している。学年段階が上がるにつれて、「良いことが多い」の回答が多くなる。一方、携帯ゲーム機の使用では、「良いことが多い」とする回答は2割程度にとどまっている。子どもの携帯電話の使用に関しては、3～4割程度の母親が「良いことが多い」と回答している。また学年段階が上がるにつれて、肯定的な意見が増加する傾向がある。

図5-1-6 子どものパソコンの使用についての意識（全体・学年段階別）



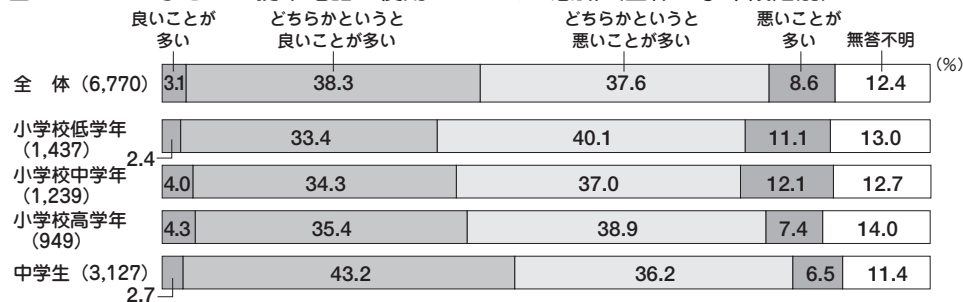
注1) 「全体」には学年段階が不明の者が含まれる。
注2) () 内はサンプル数。

図5-1-7 子どもの携帯ゲーム機の使用についての意識（全体・学年段階別）



注1) 「全体」には学年段階が不明の者が含まれる。
注2) () 内はサンプル数。

図5-1-8 子どもの携帯電話の使用についての意識（全体・学年段階別）



注1) 「全体」には学年段階が不明の者が含まれる。
注2) () 内はサンプル数。

全体で約7割の母親が、配偶者は子育てに協力的であり、また子どもとコミュニケーションがとれていると評価している。しかし、夫婦間の会話、自分の関心事や悩み事の理解に関して肯定的な評価は6割程度にとどまる。学年、子どもの成績、母親の就業状況により差があり、とくに夫婦間の会話、父親と子どもとのコミュニケーションで差が大きい。

● 配偶者との関係

図5-2-1は母親に配偶者との関係についてたずねた結果を学年別に表している。「ふだんからご夫婦でお互いの関心事について話し合うことがありますか」(以下、「夫婦間での関心事についての会話」)、「配偶者は、あなたの関心事や悩み事などを理解してくれていると思いますか」(以下、「自分の関心事や悩み事などの理解」)、「配偶者は、子育てに協力的だと思いますか」(以下、「子育てに協力的」)、「配偶者は、お子様とよくコミュニケーションがとれていると思いますか」(以下、「子どもとのコミュニケーション」)の4つの質問に対し、肯定的な評価の割合(「よく(とても)」+「まあ」)を示している。

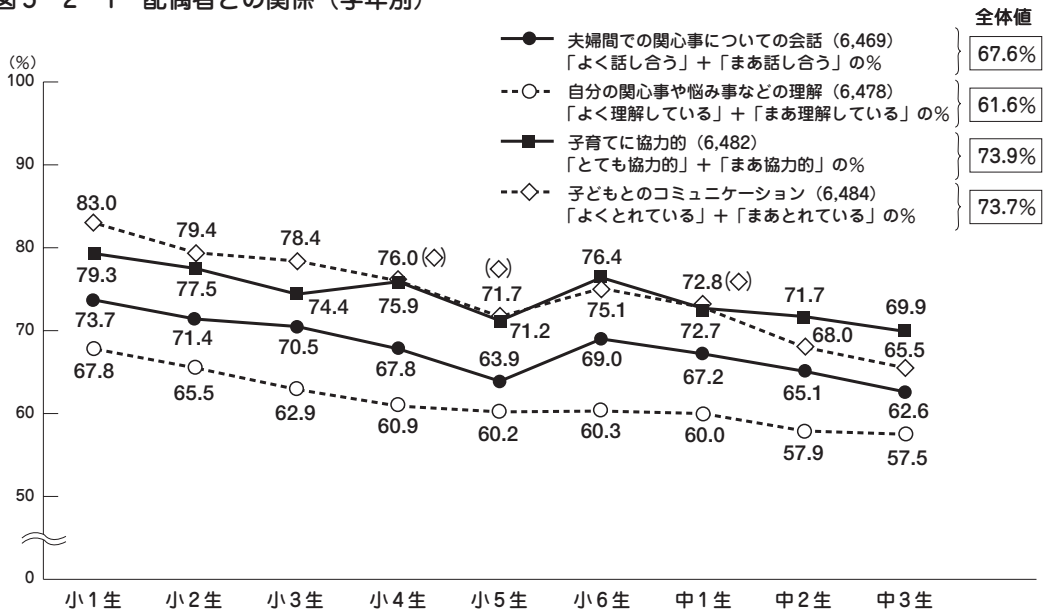
まず、全体値からいえることは、73.7%の母親が配偶者は「子どもとのコミュニケーション」がとれていると答えている。また、73.9%が「子育てに協力的」であると回答し、母親からみた子どもと父親の関係は良好である場合が多いようだ。その一方で、「夫婦間での関心事についての会話」は67.6%、「自分の関心事や悩み事などの理解」では61.6%の肯定的な評価にとどまり、前述の2項目より低い。また、全体的な傾向として、4項目すべてについて学年が上がるにつれて割合が

下がる。小1生から中3生でもっとも大きく減少するのは、「子どもとのコミュニケーション」で、17.5ポイント(小1生83.0%→中3生65.5%、以下同)である。つづいて「夫婦間での関心事についての会話」が11.1ポイント(73.7%→62.6%)である。子どもの学年が上がるにつれて、家族のなかでの会話、コミュニケーションが少なくなる様子がうかがえる。

● 子どもの成績別にみた配偶者との関係

子どもの成績別にこれら4つの質問を分析してみると、図5-2-2のような結果がでた。子どもの成績が「下位」→「中位」→「上位」の順に肯定的な評価の割合が高くなっていることがわかる。子どもの成績「上位」と「下位」の差が大きい順に列挙すると、「自分の関心事や悩み事などの理解」12.6ポイント(「上位」65.3%>「下位」52.7%、以下同)、「子どもとのコミュニケーション」12.2ポイント(77.9%>65.7%)、「子育てに協力的」10.1ポイント(77.8%>67.7%)、「夫婦間での関心事についての会話」9.3ポイント(71.0%>61.7%)であった。子どもの成績と母親からみた配偶者との関係、配偶者の子どものかかわり方の評価には相関関係があるようだ。

図5-2-1 配偶者との関係（学年別）

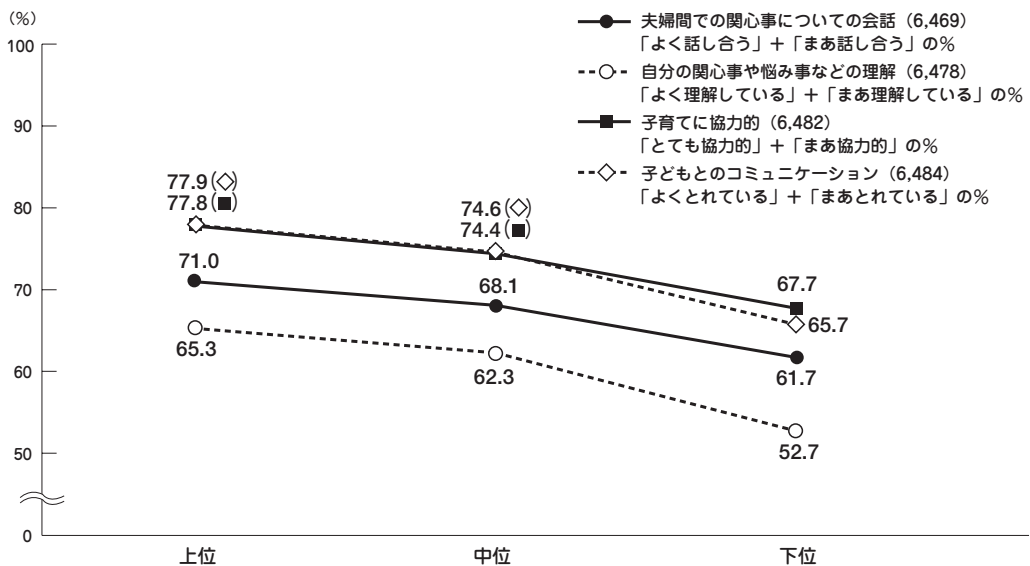


注1) 全体値は小1～中3生の数値。

注2) 「配偶者と一緒に暮らしていない」を除いて算出しているため、巻末基礎集計表と数値が異なる。

注3) (◇)内はサンプル数。

図5-2-2 配偶者との関係（成績別）



注1) 子どもの成績については、「お子様の学校での成績は、クラスの中でどのくらいですか」とたずねた質問で、「上のほう」「真ん中より上」を「上位」、「真ん中くらい」を「中位」、「真ん中より下」「下のほう」を「下位」とした。

注2) 「配偶者と一緒に暮らしていない」を除いて算出している。

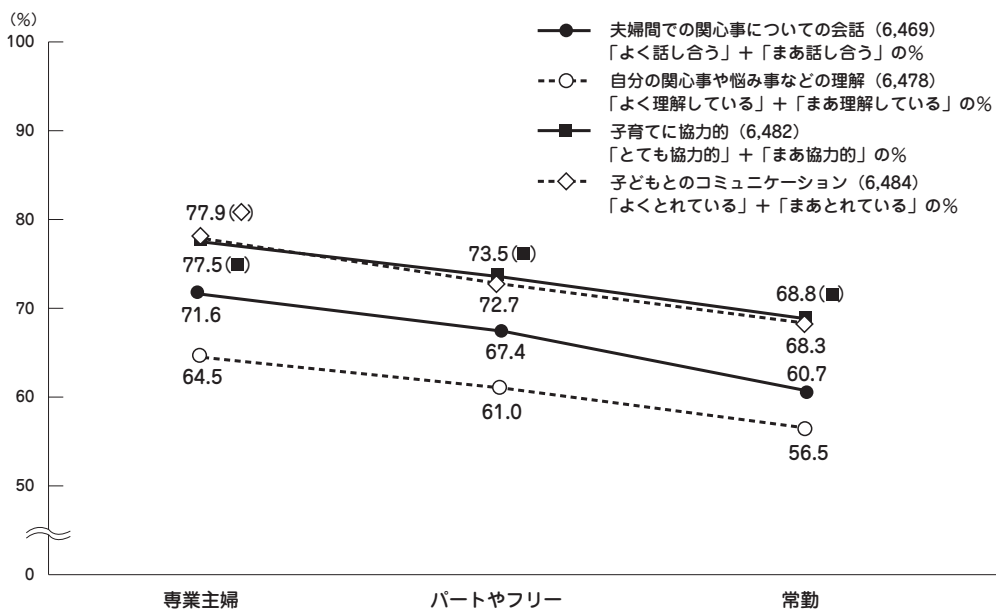
注3) (◇)内はサンプル数。

● 母親の就業状況別にみた配偶者との関係

最後に母親の就業状況別にみてみよう。図5-2-3からわかることは、すべてについて常勤→パートやフリー→専業主婦の順で「よく(とても)」+「まあ」の割合が高くなる。専業主婦と常勤の差は「夫婦間での関心事についての会話」でもっとも大きく10.9ポイント

(専業主婦71.6%>常勤60.7%、以下同)、続くのが「子どもとのコミュニケーション」で9.6ポイント(77.9%>68.3%)である。常勤はやはり時間的な制約からか、会話・コミュニケーションが夫婦間でも子どもと父親との間でも十分であると感じる割合が専業主婦の場合に比べて低い。

図5-2-3 配偶者との関係(就業状況別)



注1)「配偶者と一緒に暮らしていない」を除いて算出している。

注2) () 内はサンプル数。

02年調査と比較してみると、さまざまな学校の取り組みや指導に対する母親の満足度は低下している様子がうかがえる。とくに中学生の母親でその傾向が強い。全体では7割以上の母親が総合的に「満足している」と回答している。しかし、学年別では小5生と中2生、成績別では「下位」の母親の満足度が低い。

家庭外で子どもがもっとも多くの時間を過ごすのは学校である。母親は学校の取り組みや指導をどのように評価しているのだろうか。ここでは、11項目の学校の取り組みや指導に対する母親の満足度、さらに総合的な満足度についてみていきたい。

● 学校の取り組みや指導に対する満足度

学校の取り組みや指導に関する11項目について母親の満足度を示したのが図5-3-1である。まず、全体的な傾向としていえるのは「かなり満足している」の割合が02年調査から減少していることである。とくに02年調査の数値から5ポイント以上「かなり満足している」が減少した項目は、「行事や委員会活動、部活動・クラブ活動などを十分行うこと」で5.1ポイント、「いじめ問題や友だち同士のトラブルへの対応」で9.7ポイント、「スポーツ能力や体力の向上」で6.2ポイント、「コンピュータを使う力をつけること」で5.0ポイントである。この4項目は「かなり」と「まあ」を合計した「満足している」の割合（以下同）も減少している。しかしおよそ半数の項目で「まあ満足している」は増加しており、「満足している」割合の経年変化は大きくはない。そうしたなかでも「満足している」の割合が02年調査から5ポイント以上減

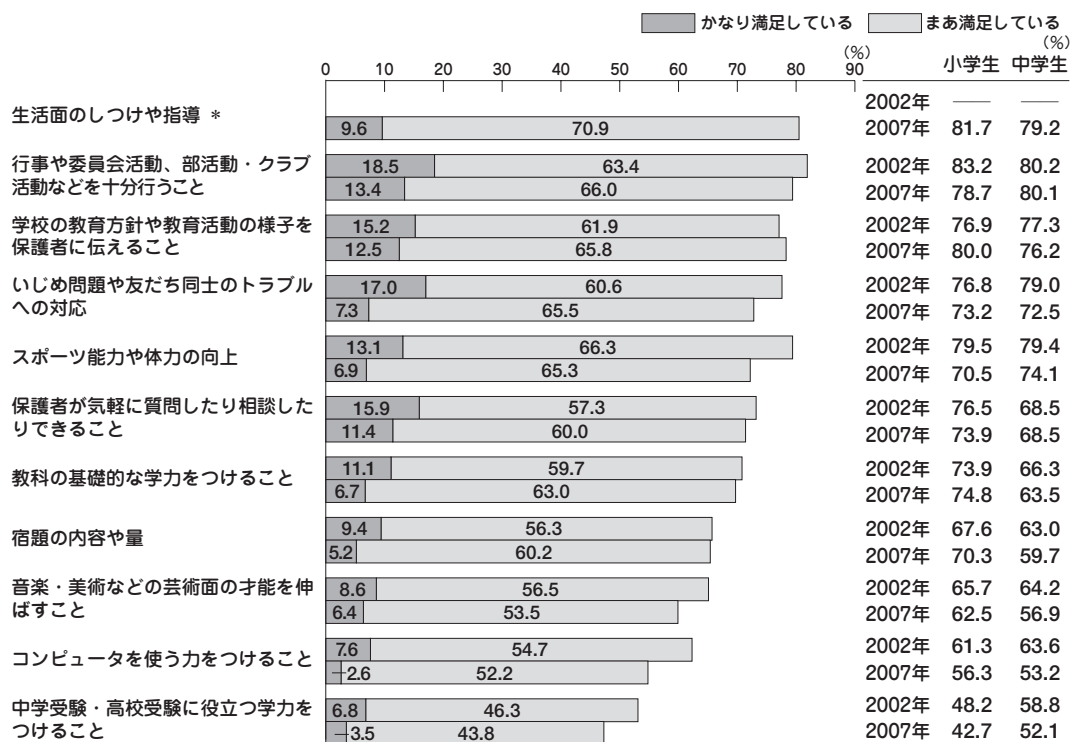
少したのは、「スポーツ能力や体力の向上」7.2ポイント、「音楽・美術などの芸術面の才能を伸ばすこと」5.2ポイント、「コンピュータを使う力をつけること」7.5ポイント、「中学受験・高校受験に役立つ学力をつけること」5.8ポイントである。

学校段階別でみると、「コンピュータを使う力をつけること」で、小学生では02年調査から5.0ポイントの減少であったのに対し、中学生では10.4ポイントの減少であった。さらに、「宿題の内容や量」は小学生では02年調査から2.7ポイント増加したのに対し、中学生では逆に3.3ポイント減少している。

● 総合満足度

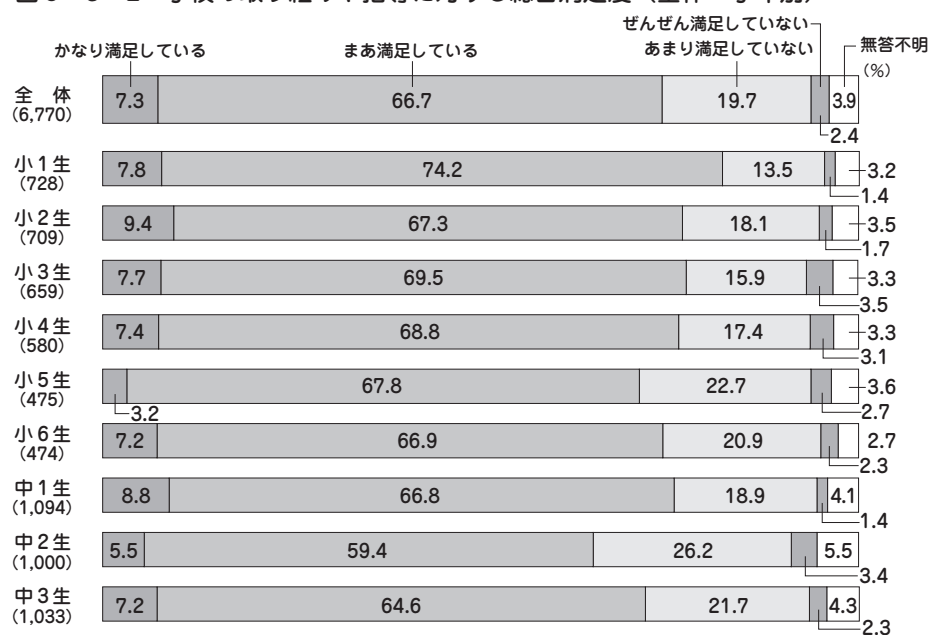
つづいて、学校の取り組みや指導に対する総合満足度をみてみよう（図5-3-2）。全体値をみてみると、74.0%の母親が学校の取り組みや指導に対して「満足している」（「かなり満足している」＋「まあ満足している」の％、以下同）と回答している。小1生では「満足している」の割合は82.0%でもっとも高い。また中2生でもっとも低く64.9%、次に低いのは小5生の71.0%である。小5生ではとくに「かなり満足している」の割合が他の学年と比較して低い。

図 5-3-1 学校の取り組みや指導に対する満足度（経年比較 学校段階別）



注 1) 左図は小1～中3生の数値。上段：2002年、下段：2007年。
 注 2) 右表は「かなり満足している」+「まあ満足している」の%。小学生は小1～小6生、中学生は中1～中3生の数値。
 注 3) *は2002年調査では該当質問項目なし。
 注 4) 無答不明を除いて算出しているため、巻末基礎集計表と数値が異なる。

図 5-3-2 学校の取り組みや指導に対する総合満足度（全体・学年別）



注 1) 「全体」には学年が不明の者が含まれる。
 注 2) () 内はサンプル数。

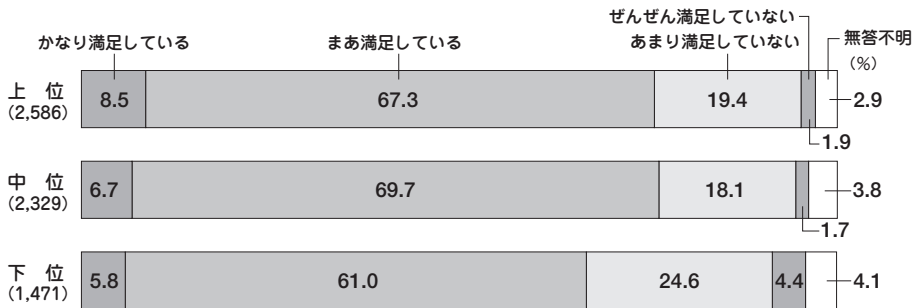
子どもの成績、母親の就業状況別にみた総合満足度

最後に、子どもの成績と母親の就業状況別に学校の取り組みや指導に対する総合満足度をみてみよう。まず、図5-3-3は子どもの成績別の数値である。「上位」で「かなり満足している」の割合が若干高めであるが、「かなり」と「まあ」を合計した「満足している」の割合（以下同）は「上位」で75.8%、「中位」で76.4%であり、ほとんど差はない。大きな差があるのは「下位」で、「満足して

いる」の割合は66.8%であり、「上位」「中位」と9ポイント程度の開きがある。

つづいて母親の就業状況別の結果を図5-3-4でみてみると、就業状況による大きな差はないことがわかる。わずかではあるが、専業主婦で「満足している」の割合がもっとも高く76.4%、そのうち「かなり満足している」の割合も8.3%でもっとも高い。次につづくのは常勤の74.1%、パートやフリーは72.8%でもっとも低い。

図5-3-3 学校の取り組みや指導に対する総合満足度（成績別）

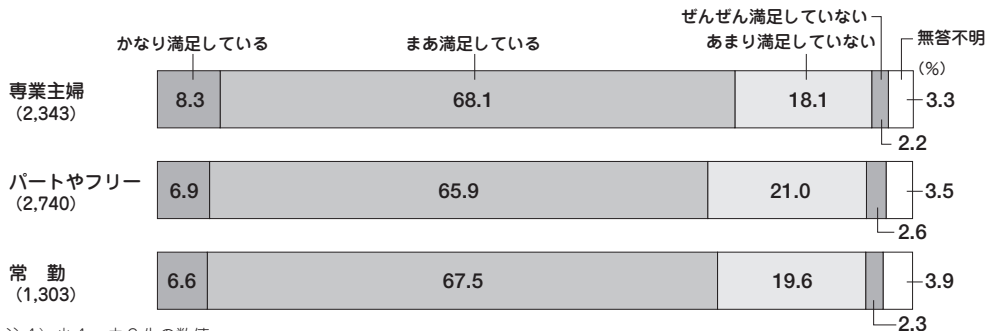


注1) 小1～中3生の数値。

注2) 子どもの成績については、「お客様の学校での成績は、クラスの中でどのくらいですか」とたずねた質問で、「上のほう」「真ん中より上」を「上位」、「真ん中くらい」を「中位」、「真ん中より下」「下のほう」を「下位」とした。

注3) () 内はサンプル数。

図5-3-4 学校の取り組みや指導に対する総合満足度（就業状況別）



注1) 小1～中3生の数値。

注2) () 内はサンプル数。